



ドクツルタケ

## 2023年全国食中毒発生状況について

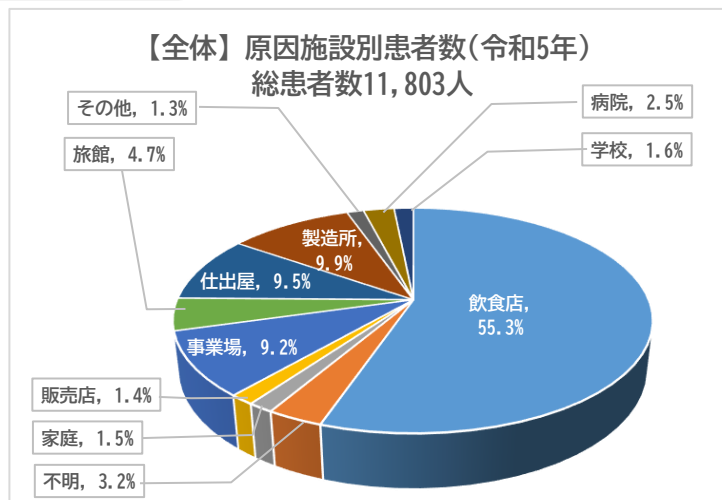
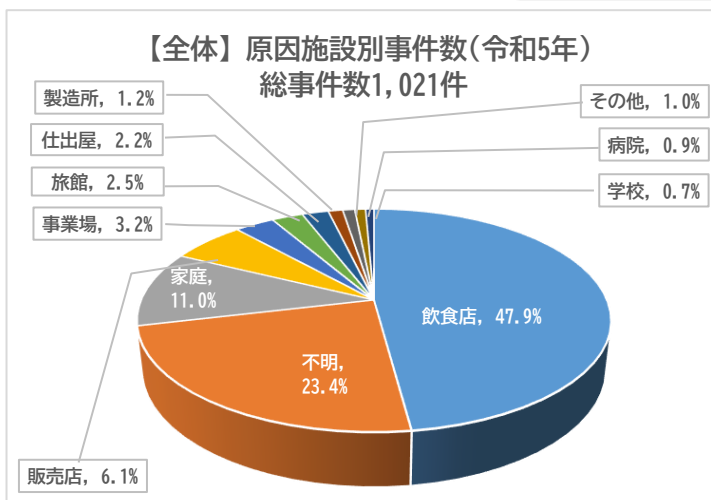
2024年2月21日、厚生労働省の薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会食中毒部会が発表した『食中毒統計資料 2023年(1月～12月)』をもとに食中毒の発生状況を説明いたします。それによると総事件数は1,021件で、一昨年に比べ59件の増加であったのに対し、総患者数は11,803人(死亡者4人)と一昨年に比べて4,947人の大幅な増加となり、なかでもノロウイルスによる食中毒は事件数、患者数ともに新型コロナウイルス感染症が流行する以前である2019年のレベルに戻ってしまいました。

順位	病因物質(食中毒名)	事件数	患者数(死者数)	順位	病因物質(食中毒名)	事件数	患者数(死者数)
1位	アニサキス(寄生虫)	432	441	9位	腸管出血性大腸菌[VT*産生]	19	265
2位	カンピロバクター	211	2,089	10位	化学物質	8	93
3位	ノロウイルス	163	5,502	11位	その他	5	592
4位	自然毒	57	129	12位	その他の病原大腸菌 C	3	116(1人)
	(植物性) A	44	114(1人)	13位	セレウス菌	2	11
	(動物性)	13	15		腸炎ビブリオ	2	9
5位	ウエルシュ菌	28	1,097		その他の寄生虫	2	2
6位	サルモネラ属菌 B	25	655(1人)	14位	その他のウイルス D	1	28(1人)
7位	クドア(寄生虫)	22	246			その他の細菌	1
8位	不明	20	269	*VT:verotoxin(ベロトキシン)という毒素の略称名			
	ぶどう球菌	20	258				

A:発生日10月6日 北海道 家庭内 推定ドクツルタケ 女性  
B:発生日8月19日 和歌山県 仕出し屋 サルモネラ属菌 男性

C:発生日6月2日 福岡県 飲食店 その他の病原大腸菌 女性  
D:発生日1月19日 栃木県 事業場給食 ロタウイルス 女性

## 2023年 原因施設別食中毒発生状況



概評:全食中毒発生件数では1位を継続しているアニサキスは、432件441人で一昨年より134件137人の大幅な減少となりましたが、同じく寄生虫のクドアが一昨年の倍で22件、患者数は2.7倍の246人を数えました。どちらも予防に冷凍保存等の取扱いが重要です。次いでカンピロバクターが211件2,089人と一昨年より26件1,267人大幅増加となりました。同様に腸管出血性大腸菌も19件265人と一昨年に比べて11件187人も増加となり、その他の細菌類も総じて件数が一昨年より増加傾向を示しました。ノロウイルスにおいては例年のごとく、多くの件数と患者数を計上しています。事件数163件で2.6倍、患者数5,502人で2.5倍と一昨年より大幅な増加となりました。以上、細菌やウイルスを病因物質とする食中毒が再び増加傾向に転じた要因として昨年5月7日まで新型コロナウイルス感染症予防対策で用いられて来た手洗いやうがい、マスク着用等が任意になったことが考えられます。これらは食中毒予防対策にも有効です。細菌性食中毒予防の三原則とウイルス性食中毒予防の四原則にあわせ、守って行きたいものです。

